

はじめに

まもなく文部科学省から、新しい学習指導要領が告示されようとしています。これまで、様々な議論が重ねられてきましたが、その目指すところは、「2030年ころの社会の在り方を見据え、その先も見通した姿を考えていくこと。」とされています。これは正に、今、目の前にいる子どもたちが成人になる頃の姿となります。子どもたちには、「みんなで手を携え、知恵と力を合わせて、新しい価値を創造し、課題を乗り越えていける逞しい社会人」に育ってほしいと願います。

さて、平成22年からスタートした「こころ からだ はずむ 柏っ子」をテーマとする共同研究は、今年度で7年目を迎えました。研究初年度に生まれた子どもたちが、今年度は小学校1年生になっていることを考えますと、続けてきた時間の長さが実感されます。

この研究の発足当時は、全国的に見ても例のない取り組みであったことから、「どんな測定をしたら良いのか、そのデータをどう生かしていくのか。」など、推進委員の先生方を中心に皆さんで悩み、知恵を出し合い、試行錯誤を繰り返したと聞いています。その後は、今の体制が整えられ、毎年少しずつ工夫が加えられ、充実しながら貴重なデータと実践が蓄積されています。今年度は、この研究の中から生まれた「分析シート」をもとに、「園生活の中で、どんな力をつけさせたいのか、どんな遊びを経験させたいのか。」など、多くの園で先生方が話し合い、様々な取り組みが成されました。今年もそれらの研究成果がこのあゆみにまとめられました。これまでの積み重ねの連続性の中で今年度の成果を検証することで、次年度につながっていくことを期待しています。

先日、ある小学校の先生が、「春先になると、近くの園が運動測定に来ることや校庭にお散歩に来ること、さらには1年生と年長児が交流することが、最近ではどの学校でも『普通の姿』になってきた。」と話していました。そのような姿になるまでには、多くの関係者の方々の地道な努力と確かな実践があったものと感謝しています。

この共同研究の取り組みが、幼稚園・保育園・認定こども園と小学校の「つなぎ役」となり、柏市の子どもたちの笑顔と健やかな成長につながっていくことを願っています。

最後になりましたが、きめ細かくご指導いただきました聖徳大学大学院教授 太田繁先生、ご協力いただきました市内の幼稚園、保育園、認定こども園の皆様、並びに関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

柏市立教育研究所 所長 内田 守